

番号	9-7	名称	遊就館
指定日	平成 15 年 6 月 9 日	所在地	九段北三丁目 1 番 2 号
設計者	伊藤忠太、内藤太郎、柳井平八	竣工	昭和 6 年 (1931)
			
<p>歴史・文化的特徴</p> <p>国防思想の普及のため、旧日本陸海軍の武器陳列所として靖国神社内に建てられた。戊辰戦争から太平洋戦争にいたるまでの戦没者の遺品や絵画、兵器などが展示されている。</p> <p>関東大震災で壊れた初代の遊就館は、イタリア人のカペレッティの設計によって明治 14 年 (1881) に造られており、明治初期の名建築として知られた。</p> <p>現代の建物は二代目にあたる。平成 14 年 (2002) に改修、増築工事が施され、リニューアルオープンした。</p>			
<p>意匠・構造の特徴</p> <p>設計顧問の伊藤忠太は、日本及び東洋建築史学の開拓者でもあった。彼の理念に基づき、RC 造で、新しい和風の意匠を展開している。単に洋風建築に日本建築の屋根を載せた「帝冠様式」と異なり、伝統的な木造寺社の形を崩しても全体の調和をはかる和洋折衷で、「近代東洋式」という。</p> <p>銅板葺きの緑の屋根、1 階外壁は白い花崗岩貼り、2 階外壁には黄土色のリシン塗り粗面仕上げと、独特の色合いが用いられている。意匠は基本的に和風であるが、細部に鬼の彫り物など東洋的な意匠を盛り込んでいる。</p>			
<p>周辺景観との関係</p> <p>靖国神社境内にあり、他の和風建築と調和している。</p> <p>緑豊かな中に立地しており、柔らかな色合いの外観が周辺の緑と共に調和ある景観を形成している。建物はボリュームがあるので、緑に見え隠れしながらも、はっきりと識別が可能である。</p>			